

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 28 年 8 月 4 日 (2016.8.4)

【公表番号】特表 2013-502793 (P2013-502793A)

【公表日】平成 25 年 1 月 24 日 (2013.1.24)

【年通号数】公開・登録公報 2013-004

【出願番号】特願 2012-525181 (P2012-525181)

【国際特許分類】

H 0 4 W 16/26 (2009.01)

H 0 4 W 72/12 (2009.01)

H 0 4 W 4/06 (2009.01)

H 0 4 W 28/04 (2009.01)

H 0 4 W 72/14 (2009.01)

【 F I 】

H 0 4 Q 7/00 2 3 1

H 0 4 Q 7/00 5 6 1

H 0 4 Q 7/00 1 2 5

H 0 4 Q 7/00 2 6 3

H 0 4 Q 7/00 5 6 4

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 28 年 6 月 17 日 (2016.6.17)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 3 9 】

e N B - R (中継) の D L データの上の行の D は、例えば事前設定などによる、ダウンリンク送信用のサブフレームパターンを指定している。この場合、D を有する 4 個のサブフレーム、それに続く D のない 4 個のサブフレーム、それに続く D のある 4 個のサブフレームなどから推定しうるように、事前設定の周期は 8 m s である。しかし、このパターンにおいては、M B S F N 行の中に S で指定されている潜在的な M B S F N サブフレームであるサブフレームだけを、e N B が送信を中継するために実際に使用しうる。すなわち、情報を有する送信であるバックホールのダウンリンク送信は、サブフレームが、M B S F N 行に S かつ e N B - R の D L データの上の行に D と指定されている場合だけ行いうる。これは、中継ノードが同時にユーザ装置に情報を送信しないときだけ、中継ノードへのダウンリンク送信を行えることを意味する。図 4 に示す M B S F N フレーム構造は、S を有するフレームでは制御領域を越えてデータが受信されないことをユーザ装置に知らせる。サブフレーム 0、4、5、9 は、上述のように、M B S F N サブフレームでなくてもよいことに留意されたい。M B S F N サブフレームは、1 0 m s または 4 0 m s の周期のパターン属性を有する。図 4 は、一例の 4 0 m s のパターンを示すが、パターンの一部だけが示されている。ダウンリンク送信 D と一緒に、アップリンクグラントも送信される。上記で導入した基本原則によれば、アップリンク U n サブフレームは、ダウンリンク U n サブフレームの 4 つの送信時間間隔後に発生する。これは、フレーム 1 のダウンリンクサブフレーム 6 に関して、アップリンクサブフレームは 4 T T I 後に発生することを意味する。すなわち、フレーム 1 のダウンリンクサブフレーム 6 に関して、対応するアップリンクは、フレーム 2 のサブフレーム 0 で発生する。修正 U n アップリンク H A R Q によれば、明示的 U n ダウンリンクフィードバックは存在しない。エラーの場合、次に利用可能な送信

機会にアップリンクグラントが代わりに発行される。図 4 に示される例では、次の機会は、1 または 2 ラウンドトリップ時間 (R T T) 後に発生する。これについては、次の例で示す。例として、フレーム 1 のサブフレーム 2 の送信が変化していると想定する。このサブフレームに対応する H A R Q プロセス I D は、図 4 の 3 行目から分かるように、4 である。そして、e N B は、同じ H A R Q プロセス 4 の次に利用可能な送信機会 (フレーム 2 のサブフレーム 0) のために、同一の、トグルしていないデータビットインジケータを有するアップリンクグラントを発行する。従って、U L 再送信は、8 サブフレーム後または 1 ラウンドトリップ時間後の、フレーム 2 のサブフレーム 0 で送信される。